

安全と安心のまちづくり 防災と福祉について

創政クラブ 山村 悦三

芦屋市では行政改革のもと職員削減がらくる消防職員の不足や消防団員の確保の問題については、東日本大震災を新たな教訓として、消防団員の確保が、市民を守る大きな手立てと考える。定数を大きく下回る現在、団員を確保するには楽しく魅力あることが入団勧誘の口実になる。そうしたことから魅力ある消防団にするための処遇のあり方はいかなるものかお尋ねする。

消防団員の確保に ついては、市内各地の募集方法として、市内各地で行われる自主防災組織の訓練会場などで消防団員募集コーナーを設けるとともに、ホームページにも消防団の活動内容の紹介や募集について掲載しているほか、街頭広報を行うなど積極的な入団促進に取り組んでいる。今後も魅力ある消防団づくりに取り組みながら、消防団員の確保に努めていく。消防団員の待遇については、条例に基づき手当



消防出初め式

等を支給しており、近隣市と比較しても劣っていないと考えている。市営住宅の建て替え時における福祉施設の設置については、生活支援員によるサービスやレクリエーションハウジングの普及など、入居者が安心して住み続けることができるよう検討していく。

人口減少社会へ戦略を持つ 新たな芦屋の創造を

イープン 中島かおり

常に「市民の目線」立つことを強調されるなら、年度末のこの時期に土・日開庁、ワンストップ的な窓口対応はできないものか。JR芦屋駅南地区の整備については、本市のような住宅都市での民間賃貸住宅の家賃は高額であることから、財政負担が増大するのでは難しいと考えている。

NPO等に開き、共に支えあう仕組みを構築するという「新しい公共」についてはどのような考えを持っているのか。「新しい公共支援事業」に取り組む考えはあるのか。一九番通報による搬送要請に出勤しない基準はあるのか。土・日曜日の窓口業務体制の問題や一部の業務内容しか対応できないことから実施は難しいと考えている。JR芦屋駅南地区の整備については、着手時期は明らかになっていないが、まずは基礎的な調査を中心に進めていきたい。防犯カメラの設置等については、必要な場所には順次検討していきたい。中学校給食については、持参弁当による昼食が基本であるが、今後は、近隣市の状況を注視



救急車(訓練)

していききたい。少子化対策は、次世代育成支援対策推進行動計画に二百五十六事業を掲載している。高齢者八五運賃半額助成制度を継続するために十分検証する必要があると考えている。「新しい公共」については、市民と行政が一体となって作り出すものと考えている。公共支援事業の取り組みについては、兵庫県の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に応募する予定である。一九番通報は、要請があればすべて出動している。

総括質問

三月定例会では、初日の施政方針説明を受けて、三月七日、八日の二日間、五会派の代表が三十項目の内容について総括質問を行いました。総括質問の内容の一部を、それぞれの会派の所属議員をお知らせします。

…質問 A…答弁

- 創政クラブ(山村 悦三)
・財政について
・安全と安心について
・環境について
・医療、保健、福祉について
・教育について
・子育て(中島かおり)
・基礎自治体としての役割と責任について
・少子高齢化社会への展望について
・「市民の目線」に立った市民サービスについて
・快適で住みよいまちについて
・安全と安心につながるまちについて
・行政運営について
・教育委員会の取り組みについて
・公明党(田原 俊彦)
・子育てについて
・福祉について
・国際交流について
・景観行政について
・防災について
・公共施設の改修・整備について
・日本共産党(木野下 章)
・市民の暮らしに思いを寄せる市政で
・子育てへの支援を
・国保料引き下げを
・高校学区見直しに反対を
・市財政について
・平和市長会議に参加を
・新社会党(前田 辰一)
・JR芦屋駅南整備事業について
・公園整備事業について
・青少年の健全育成について
・南芦屋浜のまちづくりについて
・市民病院について
・本市における人権行政について

会派名簿(大会派・届出順) 総括質問時所属名簿

会派名	所属議員(幹事長 副幹事長)
創政クラブ	山村悦三 助野勇 長野良三 幣原都筑 都筑省三
イープン	中島かおり 中島健一 松木義昭 重村啓二郎 畑中俊彦
公明党	田原俊彦 佛山和也 徳田直彦
日本共産党	木野下章 森しずか
新社会党	前田辰一 山口みさえ
会派に属さない議員	長谷基弘 大久保文雄 いとうまい 中村修一

福祉施策について

公明党 田原 俊彦



開森橋から(芦屋川)

子育てについて、妊婦健診は通算十四回七万円まで助成されている。現在では、受診時に健診料を全額窓口で支払い、出産後、市に請求する。つまり、健診料を立て替える。神戸市のように一回あたり五千円の補助券を十四回分、前もって配布するように改善すべきではないか。また、こども医療費では、小学校四年生から六年生までの通院医療費の助成も兵庫県と共同して、本年十月から芦屋市も助成制度を検討するべきではないか。

高齢者向けの施策では、高齢者が安心して外出できる手立てとして、自分の住所氏名やかかりつけ医などの情報を記載した「安心カード」を作り、希望者に配布してほしい。また、介護を利用している利用者本人や家族のための相談しやすい環境づくりも必要だ。施設や行政の窓口には直接言いくいことも、客観的に相談に乗ってくれる介護相談員を創設すべきと考えるがご見解をお伺いしたい。

妊婦健診の助成方法を受診券やクーポン券形式などに変更することについては、平成二十四年度に予定している健康管理システムの更新時に、他市の実施方法を参考に検討していきたいと考えている。こどもの医療費助成事業については、兵庫県が本年十月から小学校四年生から六年生までの通院医療費にも拡充する予定であり、本市も兵庫県に準じて助成事業の対象を拡充するよう検討している。今後の通院費の拡充については、本市の財政状況等を考慮し、兵庫県と共同事業で行うことを基本に実施していきたい。「安心カード」については、民生児童委員協議会において



保健福祉センター

取り組みが決定されたので、平成二十三年度早々の実施を目指し、具体的な方法について協議している。介護相談員制度については、他市の状況を調査し、市内の介護施設とも協議しながら検討してきた。平成二十三年度には、施設の手直し把握等を行い、導入していく。

暮らし・子育て応援の市政を

日本共産党 木野下 章

中学三年生までの入院医療費無料化は、一歩前進であるが、通院は二歳までのままである。西宮は中三まで無料にしており、宝塚・川西も就学前まで無料にする。芦屋でも通院無料化の拡充を求め、

保育所の待機児童が二百七十人を超えている。市は建設場所を小学校用地にしようとしているが、そこにたわわれ過ぎず市有地や空き施設などの活用も図り急いで保育所建設に乗り出すことを求める。大阪では府が中学校給食導入を決め、一気に広がる状況である。遅れている兵庫県も実施率五〇%を超えた。全国公立中学の八割実施の中学校給食を芦屋でも導入を、年収三百万円、四十代の夫婦、子ども一人の世帯の国民



構造保育所

健康保険料が三十万円、高すぎて払えない。滞納が十七％に。払わないのではなく払えない保険料の引き下げを求める。①子どもの数が増えるほど増える保険料、せめて十八歳未満の均等割の軽減を。②一世帯一万円の引き下げを。事業については、兵庫県が本年十月から小学校四年生から六年生までの通院医療費にも拡充する予定であり、本市も兵庫県に準じて助成事業の対象を拡充するよう検討している。保育所の増設については、遊休施設や市有地などを活用することについては、財政状況も含め検討したが適地はなく、保育所用地として利用することは難しいと考える。

市民病院は新年度で病棟の建て替え工事が完了し平成二十四年四月から新病棟がオープンする。その時点で十分な医師をはじめとした医療スタッフを確立されていないについては、現体制とオープン時に予定される体制とが、また、電子カルテシステム等の整備拡充を予定しているが、院内の効率化はもとより、病棟、病棟の連携は地域医療の拡充の視点が必要ではないか。病院改革プランに基づく諸施策を展開している中、地域医療支援病院の承認を掲げている。現在県内には県立西宮病院など八病院が承認されているが、いずれも医療圏内の高度医療を担当する中核病院である。市民病院でそのような条件整備が図られるの



市立芦屋病院

市民病院は新年度で病棟の建て替え工事が完了し平成二十四年四月から新病棟がオープンする。その時点で十分な医師をはじめとした医療スタッフを確立されていないについては、現体制とオープン時に予定される体制とが、また、電子カルテシステム等の整備拡充を予定しているが、院内の効率化はもとより、病棟、病棟の連携は地域医療の拡充の視点が必要ではないか。病院改革プランに基づく諸施策を展開している中、地域医療支援病院の承認を掲げている。現在県内には県立西宮病院など八病院が承認されているが、いずれも医療圏内の高度医療を担当する中核病院である。市民病院でそのような条件整備が図られるの

3月24日定例会閉会後 退職議員に花束を贈呈しました

芦屋市議会の幣原みや議員(2期8年)が今期で退職されました。今定例会が任期中では最後の定例会となることから、本会議最終日の3月24日に、議事がすべて終了し閉会した後、幣原議員からあいさつを受けるとともに、花束を贈呈しました。幣原議員の議員活動に対し、山中市長をはじめ、議員や当局出席者、傍聴席から温かい拍手が送られました。



花束贈呈

本会議をインターネット中継

芦屋市議会では、「市民に開かれた議会」をより一層推進するため、本会議をインターネットで配信しています。インターネット配信による議会中継は、議場で行われている議会議議の様態をインターネット上でリアルタイムに配信する「ライブ中継」と収録した映像を検索し閲覧できる「録画中継」があります。「録画中継」は、概ね1週間後から次回定例会が始まるまでの間、ごらんいただくことができます。ホームページアドレス http://www.city.ashiya.lg.jp/shisei/shigikai/



東北地方太平洋沖地震災害義援金を送金しました 議員有志による街頭募金活動も

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北から関東にかけての広範囲に未曾有の被害をもたらしました。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。本市議会では、被害にあわれた方々を支援するため、全議員から集めた50万円を「全国市議会連合会東北地方太平洋沖地震災害支援本部」に送金しました。

また、3月19日には、JR芦屋駅周辺で議員有志による街頭募金活動を行い、多くの市民の皆さまからご厚意をいただきました。集まった義援金は芦屋市他市内14団体で構成する「災害義援金募集委員会」にお渡しました。16年前の阪神・淡路大震災では、全国から頂いた温かい励ましとご支援が復興への大きな力になった経験を踏まえ、今後も被災地の復興に向け、できる限りの支援を行っていきます。



議長及び各会派代表者から街頭募金で集まった義援金を市長へ